

子供の町 だより



創刊：昭和24年11月
発刊：社会福祉法人 子供の町
児童養護施設 子供の町
児童養護施設 エンジェルホーム
地域小規模養護施設 菜の花
住所：〒344-0112
埼玉県春日部市西金野井337
TEL：048-746-0206
FAX：048-746-9215
HP：<https://kodomonomachi.jp/>



「ありがとうございました」

社会福祉法人子供の町 会長 田中 文男

「何ができるだろうか?」という不安と、「あれをやりたい。これもやらねば!」という思いで、十数年間、社会福祉法人子供の町の理事長を務めさせて頂きました。去る6月の理事会で、斉之平専務理事が私の後を引き受けて下さることになり、退任させて頂きました。これまで賜りましたご協力、ご支援を心からお礼申し上げます。

私自身、引き続き理事として、会長として、これからも法人運営に関わって行くことになりました。もう少し、夢を追い続けたいと思っております。しかし、これからは、新理事長をサポートするのが私の役目。一人の力では何もできませんが、大勢の方々の力を借りれば、不可能が可能になります。今後とも宜しくお願い致します。ここで生活する子供たちのために。

「就任にあたって」

社会福祉法人子供の町 理事長 斉之平 伸一

今年6月に、子供の町の理事長に就任いたしました。

前理事長の田中会長は、日頃より子供たちに深い愛情をもって接しておられます。田中会長の子供の町へのご尽力に感銘を受けており、私も精一杯、理事長の重責を全うする所存です。

私は、春日部市にある製菓会社の社長を務めています。渋沢栄一翁の「義理両全」「論語と算盤」を個人の理念にしています。これは、社会貢献と会社経営を両立すると

いう意味です。

渋沢翁は、埼玉県の3大偉人の一人です。明治時代に、第一国立銀行の頭取を務める中、約500社の基幹的企業を創設されました。その会社は、埼玉りそな銀行、みずほ銀行(第一国立銀行)、東京海上火災保険、王子HD、東日本旅客鉄道、日本郵船などです。

社会事業では、91歳まで東京養育院(生活困窮者を保護・教育・医療)の院長を務められました。養護施設では、養護だけでなく、子供に対する教育を重視しました。

渋沢翁は、子供のころから論語を学ばれました。そして、論語を判断基準に近代日本を築いたのです。論語の中の孔子の教訓は凝縮してみれば、「忠恕」の2字になります。

「忠」…自分の良心に忠実である。衷心より誠意を尽くす。うそは言わない。

「恕」…相手の立場に立つ。相手の気持ちを察する。思いやり。

渋沢翁は、この「忠恕」を判断基準として、生涯、社会事業に会社経営に尽力されました。

私は、「忠」と「恕」の判断基準を子供の町運営の際にも適用したいと思います。

まず、職員の皆様に誠意をもち、職員の皆様の立場に立って施設運営を行います。

職員の皆様が正しい情報を得て、納得して仕事をしていただくことで、子供たちに良いサービスを提供することができ、子供たちの満足度が向上します。

子供たちは、志高く、「忠—まごころ」と「恕—思いやり」の精神を身に付けることで、協調性に富んだ心豊かな生活を送ることができます。更に、卒園後も社会の中で精神的・経済的に自立し、立派に活躍できます。

田中会長の方針を受け継ぎ、渋沢翁の「論語と算盤」を実行し、子供の町の運営に力を尽くす所存です。

ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

「驚き模様」

子供の町施設長 根岸 昇

猛暑の予想が外れて長雨の夏休み。8 月中に稲穂がこうべを垂れ稲刈りも始まり、すでに近隣の水田ではほとんど終わりを迎えています。新任職員にとって最難関の夏休みがようやく終わり、日中の園内は静けさを取り戻しています。

夏休み中に小中高 20 名の子どもたちと個別面談をしました。きっかけは、職員から中高生女兒 4 人のことで面談要請があったことです。「何で私だけなの！」と言いかねないので「普段はなかなか時間が合わなくて話せないの、気になっている人や進路のことを聞くために面談しているんだよ」と話せば不自然さがないと考えてのことです。

私の空いている時間を職員に示し、子どもたちの都合を聞いて家庭支援専門相談員が調整して予定表を組んでくれました。「空いていた」はずの時間帯にも、来客や予定が入り、自分の懸案課題を手掛ける時間が無くなりましたが、とても感動したり驚かされた有意義な面談となりました。その一つをご紹介します。高 2 の S 君はサッカー部に所属し、レギュラーを目指して真面目に練習に参加しています。一方、彼は（一財）教育支援プロジェクト基金という団体の人材養成プログラムに応募・参画し、7 月末に 2 泊 3 日の合宿に参加してきました。メンバーの中には東京・神奈川・長野・愛知・長崎などの児童養護施設で暮らす仲間たちがいて、大いなる刺激を受け、さまざまな気づきを持ち帰ってきたそうです。その中で彼が私に「長野県の施設では部活動が忙しくてアルバイトが出来ない高校生に対して“部活動奨励費”というお小遣い以外の助成金が支給されているそうです。子供の町でもぜひ検討してほしい。」と話してくれました。私は「それはとても必要で、重要なことなので検討したいと思う。S 君の要望を書いてほしい。」と頼みました。

彼に将来の進路を尋ねたら「教員の資格の取れる大学に進学して、将来は施設の児童指導員になりたいと思う。」と言いました。「どうして施設の職員になりたいと思ったの?」「小さい時に大きい人から嫌なことされて大人（職員）に助けを求めたら、逆に大きい人から余計に攻撃された。その時に自分が将来職員になってそういうことを無くそうと思ったから」とはっきりした口調で話してくれたのです。その時に職員が力になれなかったことを詫

びるとともに、私は目頭が熱くなりました。普段は無口な S 君が、滔々と約 1 時間話してくれたことに驚きました。彼曰く「話したいことが湧き出てくるんだ」。担当職員曰く「園長に話したいことがいっぱいあって面談を楽しみにしていた」後日、彼は自分たちのプロジェクトの活動を取り上げた記事が載っている読売新聞（8・18）を持ってきてくれました。見出しは『養護施設から「脱貧困」提言』。施設の高校生への教育支援を！

厚労省直轄の「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」報告書が大臣に手渡され、「新しい社会的養育ビジョン」が発表されました。多くの関係者に激震が走っています。しかし、入所児童の重篤化への対応として児童養護施設の本体施設 45 名以下・養育単位の小規模化（6 名）・常時 2 名体制などは絶対に必要な条件です。さらに夜間の夜勤体制への切替えも必要です。子どもの権利と職員の権利を守るため大いに議論を尽くしたい！

「夏休みを終えて」

エンジェルホーム施設長 高橋育弘

施設長になり初めての夏休みを終えました。夏休み中は、園庭で子どもたちの大きな声が響いています。子どもたちにとっては楽しい夏休み、職員にとっては、過酷な勤務であり大変であったと思います。子供の町では夏休みの行事として夏祭りや、夏季活動、親善球技大会などがあります。今年度から委員会や分掌業務の希望制を導入し、できるだけ職員が希望する業務を担当できるように試行しています。

夏休みの行事である夏祭りや夏季活動についても希望する職員が複数入り、準備が始まりました。忙しい夏休みの期間でしたが、空き時間を使って、職員同士が集まり、話し合いを重ねている姿がありました。

夏季活動は学年別で外出を企画・実施しています。今までは、毎年同じ職員が責任者として担当となっていたことが多く、外出先も同じような企画になってしまう傾向にありました。しかし、今年度は希望制を取ったことで、新たな力が加わり、シャワークライミングなどの新しい企画が実施され、子どもたちも日焼けをして帰り、とても楽しい時間を過ごすことができたと思います。

夏祭りについても今までは男性職員が中心となっていました。女性職員も加わり、企画・実施されました。子どもたちは夏祭りをとても楽しみにしていて、前日にある幼児さんが、「明日、夏祭りでしょ。楽しみだな…」と何度も話していました。子どもたち全員が参加できるじゃんけん大会など新しい企画や小道具を自作作成するなどの工夫や心遣いを感じることができた夏祭りだった

と思います。担当者は色々と失敗もあったと話してくれましたが、私自身には今までにない活気ある夏祭りであったと感じました。

親善球技大会では職員と子どもが力をあわせ、準優勝することができました。朝早くから練習を重ねた結果が出たと思います。今年度は新たに女性職員もソフトボールの担当に加わり、その影響から女の子も練習に加わり、雰囲気も少し変化したようです。子どもたちは日常生活とは異なる真剣な姿を見せて練習していました。ピッチャーとキャッチャーを任せられている男の子は、試合の数日前に「試合頑張る。」と伝えると、二人は照れながら「任せろよ」と言ってくれました。短い練習期間ではありますが、お互いを信頼し合っている良いコンビであるなど頼もしく感じました。

長い長い夏休みでしたが、子どもたちが楽しく過ごすことができたのは職員一人ひとりの頑張りのお陰であると感じています。この夏休み期間を振り返ってみても、職員と子どもたちは新たなことにチャレンジしてきました。チャレンジするということには、失敗が付きものですが、失敗は次の成長に繋がることであると思います。私自身、職員や子どもたちが新しいことにチャレンジする姿に励まさせるのと同時に、次の課題解決に向けて微力ながら努力していきたいと思っています



「テレホンカードから始まる支援」

子供の町

家庭支援専門相談員 倉島秀明

今年度、子供の町の家庭支援専門相談員を拝命致しました。子どもたちや保護者との家庭調整、そして卒園生のアフターケアに力を入れていきたいと考えています。

今回、私が携わったケース(卒園生のアフターケア)についてご紹介したいと思います。それは“テレホンカード”から始まった支援でした…。

卒園生のTさんは県立高校中退後、自立援助ホームを経て10代で出産、現在は全国各地を転々とする生活を送っていました。そんな、Tさんが第二子を妊娠したが生活に困窮していること、第一子の支援を含め、どのような支援や相談機関があるのか、あるNPO法人から寄贈で頂いたテレホンカードの積極的な利用(卒園生との連絡確保のため)を図るため、たまたま伺った寮舎で、同じ家庭支援相談員から相談を受けたのが最初のきっかけでした。

(相談員はTさんを幼少期から担当しており、施設を退所した後も一貫して関わりを持ち続けた結果、今回の件

を“早期に発見することが出来た”という経緯がありました)初めての“具体的なケース”に力が入ったと同時に、卒園生とはいえ自分とは全く面識のない“元児童(成人しているため)”への支援に戸惑いを感じた部分もありました。

そうしたなかで“支援策”も十分には思い描けず、まずは本人に直接会って暮らし向きを確認し、必要な相談機関に繋げようと相談員や施設長に交渉し、僅かながらの生活物資を持参して、北関東に居住する彼女のもとを相談員と一緒に尋ねました。途中、Tさんも相談員とのやりとりのなかで気持ちが揺れ動き、何度か“面会キャンセル”の連絡もありましたが事態の深刻性を考慮し、結果として“押し掛ける”形での支援になりましたが、相談員と数年ぶりに再会した時、何より“ホッと安心した彼女の顔”を覚えています。

その後、彼女のもとを何度か訪問し、関係機関ともカンファレンスを重ねた結果、第一子、第二子ともに施設に緊急一時保護されました。まずは最優先しなければならない、子どもの安心安全は確保できたものの、今回のケースを通じて2つのことを感じました。

一つは施設を退所した後の卒園生の生活問題です。少し前になりますが、「埼玉県における児童養護施設等退所者への実態調査」(平成24年度実施)では、児童養護施設等を退所した卒園生のうち、生活保護を「受けている」・「受けていたことがある」(親世帯での受給を含む)と答えた卒園生は、約14.2%にのぼるという調査結果もあります。社会的養護の子どもたちは、一般家庭の子どもたちと比べ、親から十分な支援を受けにくいと言えます。加えて昨今では、親の貧困が子どもに引き継がれてしまう「貧困の世代間連鎖」も大きな問題になっています。教育の格差や社会経験の格差が、将来的な就労や生活の格差に繋がらないよう、一人の施設職員としてどのような支援が出来るのか考える契機になりました。

2つ目は、Tさんに対する支援の在り方です。上述したように今回、子どもたちを中心として支援は進みましたが、他方、「Tさんの気持ちや思いに十分に耳を傾け、援助者として寄り添う者は居たのか？」生活物資の支援で、お世話になったソーシャルワーカーさんのもとを訪ねた時、その言葉に思わずハッとしました。成人しているとは言え、幼い頃から社会的養護のなかで育ったTさんにも支援が必要で、自分はいつしか“子ども中心”の狭い視野に陥っていなかったか…。

こうした2点を通じて、改めて他者への支援の難しさを感じたと同時に、これからも考え悩みながら、小さな“支援の芽”を見つけていきたい…。そして、その糸口に“他者の善意で集まったテレホンカード”が活用出来ればと考えています。



「たのしかったかきかつどう」

エンジェルホーム

5B寮 小1 T. N.

わたしは、あんでるせんこうえんにいきました。あんでるせんこうえんでいちばんたのしかったのは みずあそびをしたことです。うきわをつかっていたのしかったです。

おひるは あんでるばーがーをたべました。かきごおりをたべたのがいちばんおいしかったです。どうぶつたちもげんきだったので よかったです。たのしかったです。またいきたいです。

「アンデルセン公園」

子供の町

すみれ 小1 Y. W.

わたしは 7がつ25にちにあんでるせんこうえんにいきました。みずあそびをしました。おとなのひとといきました。みずにつかるときもちよかったです。かえりに みんなにおみやげをかいました。みんなが おいしいっていってくれました。

「夏季活動」

子供の町

さくら 竹山洋祐

今回、初めて夏季活動に責任者として参加させていただき、とても勉強になりました。参加させていただいた学年が、小学1年生ということで、就学して間もない子どもたちで、少し不安もありましたが、みんながとてもよく話を聞いてくれて、また他の職員の方も大変よく動いて下さり、充実した活動になりました。

アンデルセン公園では、水遊びや動物との触れ合いを子どもに体験させることができました。水遊びでは大きなスペースでとても活発に活動しながらも公共の場ということでルールを守りつつ楽しむことが出来ました。ルールを守るという大切な社会体験を経たことは、子どもたちにとって今後へのおおきなステップアップにつながるのではないかと思います。私も今日から、得たことを活かしてステップアップをしていきたいと思っています。

「また行きたいな夏季活動」

エンジェルホーム

9寮 小2 O.H.

さかなをつかまえるとき みずぎにきがえていきました。バーベキューをするときにトイレにいきたくなりま

した。キリンにやさしくしたときペロがくるくるになって、おもしろかったです。花火をやりました。花火をやっていたら火がつかなくなりました。おばけ、おばけっていったら、みんなこわがっていました。バイクでおいにくをいっぱいたべました。ペンションでねこをさわりました。かわいかったです。そこで、ねこはねていました。

「楽しかった夏季活動」

エンジェルホーム

9寮 小2 W.S.

魚をつるときに なんかあかいのをつけました。うでにつけてから またはずしにもどって ばすのなかでみずぎにきがえました。きがえてばすをでて かわにいったら魚が20ひきぐらいいました。それで、てで魚をつかまえた。かずは5ひきぐらいつかまえました。つかまえたさかなは たべられます。そしてバーベQをしたときやさいをたべました。そのあとおいにくがきて、その



あとつかまえたさかながきました。やさいとかにくとかつかまえたさかなとか おいしかったです。そのあとばすにもどって、サファリパークのバスにのりました。ライオン、トラ、キリン、サイ、シカ、がいました。サイのあしがけがしていました。いたそうでした。

「10 数年ぶりの夏季活動」

エンジェルホーム

9寮主任 中村裕子

夏季活動に十数年ぶりに参加させて頂くことになりました。尚且つ責任者ということで、企画からの始まりでした。以前行かせて頂いた際は一付き添い者としてでしたので、こんなにもやることあるのかと少々頭を抱えましたが、付き添い職員の方々のご協力もあり、何とか形としては完成しました。

那須方面に行き、サファリパークや川で魚のつかみ取り等を体験し、子どもたちも楽しめている様子でした。非日常的な体験をする中で、なかなか魚が取れない女の子には、男の子が取ってあげたり、夜の花火では、みんなで種火を分け合ったりと一人ひとりの優しい一面が見られました。

今回の夏季活動を通して、企画から活動を終えるまでは自分が体験してみなければ気付かなかったことがたくさんありました。この気付きを今後の職務に活かしていきたいです。

「夏季活動に行つて」

子供の町

3寮 小3 K. A.

ぼくは、夏季活動に行つて楽しかったことが3つあります。一つ目は、川でタイヤチューブに乗って遊んだことです。二つ目は、おやつです。おやつは、みんなで食べたので、とてもおいしかったです。三つめは、焼き肉を食べたことです。野菜を切つて焼きそばを作りました。次も、夏季活動に行きたいです。

「夏季活動」

エンジェルホーム

6寮 小3 I. I.

ぼくは、8月3日と4日で夏季活動に行きました。群馬県のキャンプ場に泊まりました。

1日目も2日目も川に行きました。川では、魚をバケツで取りました。夜は、バーベキューと花火をしました。ぼくは、花火をたくさん楽しみました。たくさん種類があったし、長く火がついているのがありました。

すごく楽しかったです。また行きたいです。

「小3夏季活動に行つて」

子供の町

すいせん 中川 亮

私は今回、小学3年生の夏季活動の責任者として参加させていただきました。自分が考えた計画で、子どもたちが楽しんでくれるかと、当日まで不安な気持ちでした。

当日は、前日降つた雨の影響で、川の水が濁っていましたが、子どもたちはそんなこと気にせず、ゴムチューブに乗って川を流れたり、魚を捕まえたりと楽しんでくれました。夕食のバーベキューでは、野菜切りや肉を焼く手伝いをしている姿が、また、花火では、最初怖がつてできなかった子が、終わりのころには笑顔で参加している姿が見られました。

いろいろと至らない点もありましたが、ベテランの職員さんたちのサポートもあり、何とか事故や怪我人も出さず終えることができました。今回の夏季活動が、子どもたちにとって、少しでも楽しかった思い出として残ってくれたら嬉しいです。



「小4、6夏季活動」

子供の町

たんぽぽ 小4 S. Y.

ぼくは、8月7、8日に、夏季活動へ行きました。

1日目の朝は、8時15分に出発、群馬県利根郡みなかみ町11時15分、3時間で、カップクラブに着きました。13時、シャワークライミング半日コースで、17時30分温泉19時バーベキュー20時30分自由時間(ビンゴ)賞品は、おやつです。21時寝る。

2日目の朝、6時30分に朝の散歩だったけど、台風が近づいてきて、行けませんでした。

7時起床、7時半朝ごはん、大人が作ってくれました。9時コテージ出発、10時、匠の里到着。ガラスの里家サンドクラブ体験。12時、お昼ご飯お土産を買う。17時、子供の町到着。

シャワークライミングで、登るのも下るのも、とても大変でした。約4時間も、ずっと山も、川も歩いていたので、たいへんでした。



「夏季活動」

エンジェルホーム

5A寮 小6 M. Y.

私は、夏季活動で、思い出に残つた活動があります。それは、シャワークライミングです。理由は、川すべりよりは、石がごろごろとあつてこわいのかなつて最初は思つたけれど、やってみると、とても楽しかつたし、思い出になりました。

2日目には、ガラス作りをしました。なれてないカッターだったので、うまくできなかったけど、一応うまくできたので、よかつたです。

「大自然や人のあたたかさに触れて」

エンジェルホーム

5B寮主任 真壁里子

例年海に行つていた夏季活動ですが、別の形で自然の恵みに触れる面白さも知つてほしいと思ひ、今年は、みなかみ町でのアウトドアツアーへの参加を企画しました。シャワークライミングという聞き慣れない言葉を前に、ボディスーツを着て山に入るときは、緊張や不安がある子もいましたが、天候に救われ、始まつてみると、川滑りや滝めぐりに夢中で楽しむ子どもの姿が見られました。流れに身を任せ、きれいな川に飛び込む様子は、たくましく、普段とは違ふ笑顔がみられたように思ひます。

温泉に癒され、コテージの部屋にはしやぎ、ガラスの家では、手ほつきを受けながら思ひ思ひにサンドブラスト体験に集中し…様々な時間を満喫した2日間とな

りました。温かく迎えてくれる方々のおかげで私たち職員も安心して子どもたちを見守ることができ、人との繋がりや支えの中で育つことの大切さを私自身、改めて感じました。この夏の思い出が少しでも、良い形で子どもたちの中に残ってくれたら、嬉しいと思います。

「楽しかった夏祭り」

子供の町

すみれ 中1 I. U.

私は、8月20日に子供の町の夏祭りで頑張った事、楽しかった事、楽しかった事があります。頑張った事は、子供役員で、たくさんお手伝いをやった事とダンスです。役員では、いす出しや屋台の準備、片付けなどをしました。ダンスでは、練習したようにおどり、成功させることが出来ました。楽しかったことは、自分が何かをやるたびに、笑顔になってもらえたことです。とてもやりがいを感じました。楽しかったことは、みんなでへんな話をしたり、一緒にご飯を食べたことです。本当に楽しかったです。また、来年も役員や、ダンスの発表をやりたいと思います。来年の夏祭りが楽しみです。

「夏祭りを終えて」

子供の町

7寮主任 今野皓亮



私は、今年度で夏祭りに携わるのは、10年目となります。今年の夏祭りは、今までで、特に印象深いものでした。携わって下さった多くの方々に、感謝いたします。本当にありがとうございました。

私は、夏祭りを子どもたちとともに喜んで欲しい。一緒に楽しみたい。夏を乗り越える糧にしたい。との思いで取り組んできました。たくさんの子たちが夏祭りをとおして少しでも喜んでくれたら嬉しいです。大人が考えた新しいアイデアで子どもたちに喜んでもらうことが大人の大きな喜びです。アイデアを膨らまし、実行しようと試行錯誤することが夏を乗り切る糧の一つです。

数年前まで、「お盆行事」という名称で、お盆に帰省ができない子を対象に行っていたものでしたが、現在は、子どもたち全員が対象に変わりました。また、名称も「夏祭り」となりました。さらに、役員は、男性職員でしたが、今年度から、女性職員も役員に加わり、新しいアイデアとやり方で、今まで以上に思い出に残る夏祭りを提供することができました。

記憶に残ったことは、テント張りの際に、男子中学生の子ども役員が進んで手伝ってくれて、本当にありがたかったことです。他にも、準備を手伝ってくれた女の子は、「次は、何をすれば良い？」と積極的に、声を掛けて

きてくれたことが印象に残っています。子どもたちの今までみられなかった一面を垣間見、さらに新しく繋がりを築けたことが、夏祭りの役員のやりがいの一つです。

夏祭りは、いつもお世話になっている方々も、来賓として参加して下さいます。その方々にも子どもたちのいつもと違う一面をみていただけたら嬉しく思います。たくさんの方々の心に残る夏祭りを、これからも、子どもたちと共に創りあげたいです。

「監督として初めてのソフトボール」

エンジェルホーム

9寮 橋本直樹

前年度までは、監督のサポートをし、チームの一員として、早朝練習や夏の合宿・大会と参加しながら、4年間チームの成長を感じ、裏方として動いてきました。

裏方の経験を積み、今年度は監督という立場になりました。初めは不安でしたが、これまでの監督方が作ってきたチームを今年でやめるわけにもいかず、これまでのチームも素晴らしかったが、それよりも、もっと良いチームにして行こうと決め、ソフトボールクラブの活動に力を入れてきました。どんなチームを目指すかを考えたとき、「笑顔でプレーしているチームにしたい」と思いました。「笑顔でプレーする」というのは、ただふざけているというのではなく、チームの誰かがミスしても責めることなく笑顔で励ましプレーするということです。

そういう思いで、朝練が始まりましたが、初めは、監督が代わったということもあり、なかなか練習にくる子がおらず、人数が少ない中での練習でした。焦らず、ソフトボールクラブに興味を持てるよう、楽しい雰囲気練習を行ってきました。その結果、練習に参加している子どもたちが、その日にやった練習の内容を楽しそうに話しているのを聞き、最初は全く興味を持っていなかった子が、少しずつ興味を持ち、練習に参加するようになってきました。日に日に練習に参加する子は、増えて行き、まともな練習が出来るまでになりました。

練習や合宿で

にし、ミスして
まし合い、良い
に取り組み、ミ
ーに引きずるこ



は、笑顔を大切に
もみんなで励
雰囲気練習
スを次のプレ
のないチー

ムになって行くのを感じることが出来ました。大会では、一人一人が一生懸命プレーをし、負けている場面でも、下を向くことなくみんなが声を出し、チーム一丸となり逆転サヨナラ勝ちの試合では、子どもたちの成長を感じることができました。結果は準優勝でしたが、負けているときもミスした選手を責めることなく、笑顔で励まし下を向くことなくプレーしていて、感動することが

できました。

職員も子どもたちも、優勝を目指していた分、悔しさは残りましたが、来年度の課題として、優勝を目指して頑張っていきたいです。

「ナイトハイクに参加して」

エンジェルホーム

家庭支援専門相談員 西村洋平

7月8日から9日にかけて、さいたま市児童養護施設カルテットさんが開催するナイトハイクに、児童8名と職員4名で参加させていただきました。

初めての試みに無事ゴールできるか、事故などおこらないかと非常に緊張しながら準備を進めていき、当日を迎えました。45kmほどの行程を8日の18時から翌朝8時くらいまで寝ずに歩き続けるという過酷なイベントに、子どもたちはなかなかイメージ出来ずに遠足気分ですタートを切りました。

結果から言えば全員そろってゴールすることが出来て、大成功だったのではないかと思います。途中トラブルも起こりましたが、職員も子どもに支えられ、子ども同士でも支え合いながら最後までやりきること出来たのではないかと思います。職員からの声かけも、だんだんと余裕がなくなり、厳しい言葉での後押しになってしまった部分もあり、反省が必要ではありますが、子どもたち皆よくついてきてくれたと思います。

カルテットの職員さんからもお褒めの言葉をいただき、「子供の町の子どもは、すごいポテンシャルを秘めている。来年もぜひ一緒にやりましょう。」と言っていただきました。カルテットの子どもたちからも、「スーパーこまち」と新幹線に例えての賞賛の声が上がるほどでした。

夜中に外に出ることもない中、夜通し歩くという経験は、職員にも子どもにも、良い経験だったのではないかと思います。

最後になりますが、今回ご協力いただいたカルテット施設長大原様並びに職員の皆様には、厚く御礼申し上げます。

子供の町あれこれ



◆夏休みを前に葛西臨海公園から児童養護施設カルテット（さいたま市桜区）まで歩く「ナイトハイク」に参加しました。若手職員がカルテットの施設長に申し入れて実現しました。18時過ぎに出発し、6か所の休憩ポイントで軽食・飲料水を補給しながら翌日3時頃には薄明るくなるのを感じ、8時半に全員揃ってゴールしました。小4・6、中1・2、高等部1年の8名、些細なことでトラブルもありました。自分の荷物を途中で放り出して身軽

に歩く子。最終的に私は5人の荷物を持つことになりました。大井給食室主任が付き添う先頭グループと私の付き添う最後尾は最大2キロ程度離れたのではないかと思います。

念願のナイトハイクに参加できたことは、私にとっても貴重な体験でしたが、子供の町が次世代を担う若手職員の発想と熱意で変わりつつあることを物語るものです。

◆小4児童からの訴え。中1女兒から「ウザイ！」と言われ、謝っても「謝り方が悪い！」と言われる。自分ではどう謝っていいかわからない！」「謝ったら許してほしいよね。〇〇ちゃんも小さい時に大きい人から嫌なこと言われたりしたのかもしれないね。部活で先輩から嫌なこと言われて〇〇ちゃんにストレスぶつけているのかもしれないけど、自分が小さい時にされて嫌だったことはやらないようにみんなにお願いしているから、職員の人に相談しようね。」

◆児童養護施設職員を目指して大学進学したT君から「都内のS園に就職内定しました！」と嬉しい電話がありました。子供の町に就職したいので応募したいと来訪しましたが、「施設規模や形態・勤務条件・地域とのかかわり等が異な他施設で経験した方が良い」と伝えました。推薦書を書くつもりでしたが、彼は、自力で先駆的な取り組みを実践している施設の採用試験に挑戦し、見事に内定を獲得したのです。大いに羽ばたいてほしい。

◆「ネギっさんの畑に行きたい！」何回となく言われ「今はお仕事だから行けないよ！」と断りつつ、「ちょっとだけいいか・・・」と応じる回数がありました。診療棟とユニット児童棟に挟まれた三角形のミニ農園。児童棟改築の際に出たブロックやコンクリートの瓦礫、鉄筋や古い玩具の破片など埋められたところで、土を掘るたびに瓦礫などが出て大変な思いをしました。ようやく畑らしさが感じられるようになったのです。今夏はミニトマト・ピーマン・バジル・パクチーを獲りました。野菜よりも、雑草たちの方が勢いよく丈夫に育っていました。それでもメインはサツマイモ。保育室の2歳児たちの「イモ掘り」用です。サツマイモの弦を引き抜こうとする男の子たちが待てるかどうか・・・。

◆8月28日春日部女子高限定『福祉のお仕事魅力発見バスツアー』（埼玉県福祉人材センター主催）の訪問先として依頼を受け、生徒11名・保護者1名・教諭1名・人材センター長ほか職員5名合計19名が来訪しました。園内・ユニット型児童棟見学と1・2年目の女子職員（保育士・社会福祉士・教員資格）から経験発表・施設概要説明

を行いました。私達の業界にとってかけがえのない「潜在的な人材(人財)」です。人材確保が大変困難な状況です。児童養護施設の現場の姿・雰囲気に触れることで高校卒業後の進路選択・将来の職業選択に繋がるきっかけになることを期待して受けました。春日部女子高卒業生・埼玉県立大卒業生・東京学芸大卒業生の3名が、高3時代の進路選択の話はもちろん児童養護施設職員の仕事の大変さ・魅力・社会的価値・やりがいをとてわかりやすく話してくれました。大変貴重な有り難い機会をいただきました。

◆子どもたちにとって夏休みの楽しみの一つは帰省です。両親や祖父母等親族宅への帰省状況を報告します。帰省率は子供の町41.6%、エンジェルホーム20.7%です。特に、エンジェルホームは平成27年度対比で27.9ポイントも下がりました。面会・帰省ともなかった子どもは2施設で64名、在籍142名の45%を占めました。帰省できない理由は「被虐

待等で児相の許可が得られない」32名(37%)「親からの連絡がない」19名(22%)でした。子どもによっては夏休みが辛い時でもあります。

◆9月に入り5年ぶりに園内の大がかりな樹木の伐採をしました。子どもたちの憩いの場である園庭公園での外遊びを3日間禁止にして安全確保もしました。桜・くぬぎ・プラムなど子どもたちを楽しませてくれた樹木もバツサリ。生い茂る大木の葉で見えなかった天空がすっきり見えるようになり心地よさも感じられます。

夕方、クリニックの診療に来たT君(小5)が園長室に来て言いました。「何で木を切っちゃうの!子どもたちが熱中症になったらどうするんですか!」「そうだね、でも老木だから台風の時枝が落ちてきて子どもがケガをしたら大変だからね。帽子をかぶって遊んでね」と私。するとT君は「じゃあ園長さんのお金でみんなに帽子を買ってきてください。」とすかさず言いました。参りました。

🍵平成29年5月～8月までに寄付金及び寄付品をいただいた方(順不同・敬称略)🍵

朝日管財㈱	サンワコンポウ(株)	東海林 勇助
アットホーム	司法書士さくら法律事務所	中村梨園 中村信明
荒木 嗣則	庄和商工会 会長 遠藤久米夫	フィリップモリス ジャパン(株)
飯島 信雄	白石 和代	フードバンク埼玉(株)トウホウ
石上 清	太平グループ	まりんちゃん(匿名)
大熊 恵子	内牧夢ランド	三井住友海上火災保険㈱
大森機械工業(株)	平方夢ランド	(一般社団法人)みらいの子ども達へ
春日部経営革新しよう会	杉戸夢ランド	明治神宮崇敬会
内堀 陽二	かすかべ夢ランド	門司 一徹
㈱アイエヌジー	太平プレイランド	(NPO)夢のかけ橋プロジェクト
科野日出子	エルアンドエル柏	楽園 南越谷店
北田 幸一	スワン 石川 浩	㈱リバティエステート
クレ歯科医院	瀬田工業有限会社	匿名の方々
小越 丈夫	(株)チュチュアンナ	

子どもたちのためにご支援ありがとうございました。

<p>子供の町後援会からお知らせ 平成29年11月13日(月)に明治記念館にて「子供の町後援会」主催のチャリティーバザーを開催いたします。</p> <p>後援会では、皆様の後援会費や寄付金・バザーの収益等で子どもたちの自立支援や進学支援を行っています。施設を出てからの生活基盤を準備することは、とても大変な事です。まして、大学等への進学をめざしている高校生には金銭的に困難な状況です。そんな子どもたちの将来を応援するために活動をしています。</p> <p>現在、3名の大学・短大・専門学校生が後援会からの奨学金を受けながら、自分の夢に向けて頑張っています。</p>	<p>子供の町HP http://kodomonomachi.jp/</p>
--	---